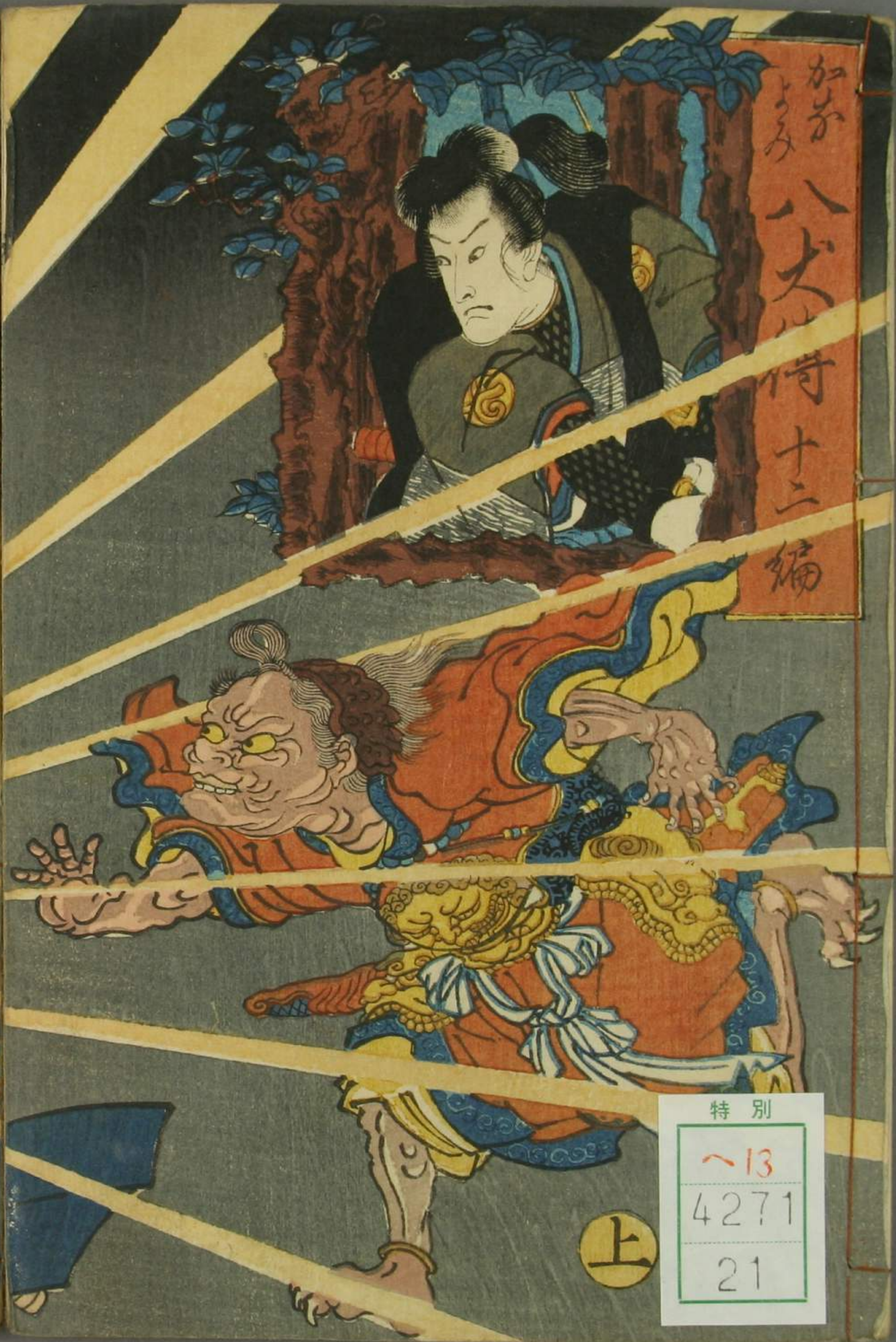


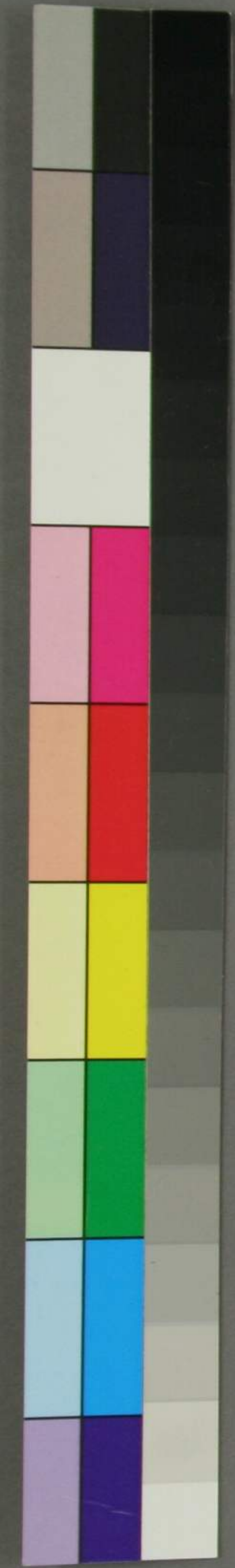


特別
 ~13
 4271
 22



加茶
 八犬山
 十二編

特別
 ~13
 4271
 21





加
八
倚
十二
編

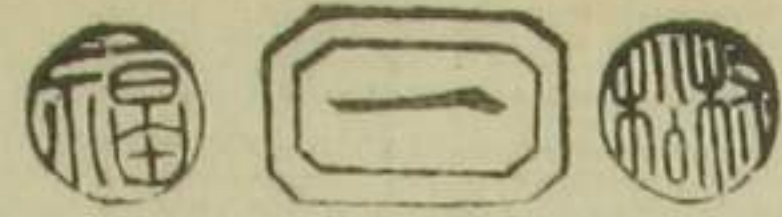
特 別

~13

4271

21

上



嘉永四亥孟春新販

為永春水記

江南に橘を江北へ種を移す。忽ち地化して枳となる。此の類、兄弟の南園に植て、梅は八房の芳名を其俟よ。予が北窓に假種を筆に隨意培せし。那枳より、作者は顔も最やあり。綴りたる入梅は謀實と赤らし。作者は顔も年ありて、十のまう二編の端文まで出る。考毎小言譯久し。唯やせん。遮莫止む。夏ふ。梅は八房は一房のみ。做得ん。唯。口を酸く。記す。

加好らみ八犬傳三編



假名讀八犬傳

十二編

文溪堂板



嘉永四辛亥
初春新刻



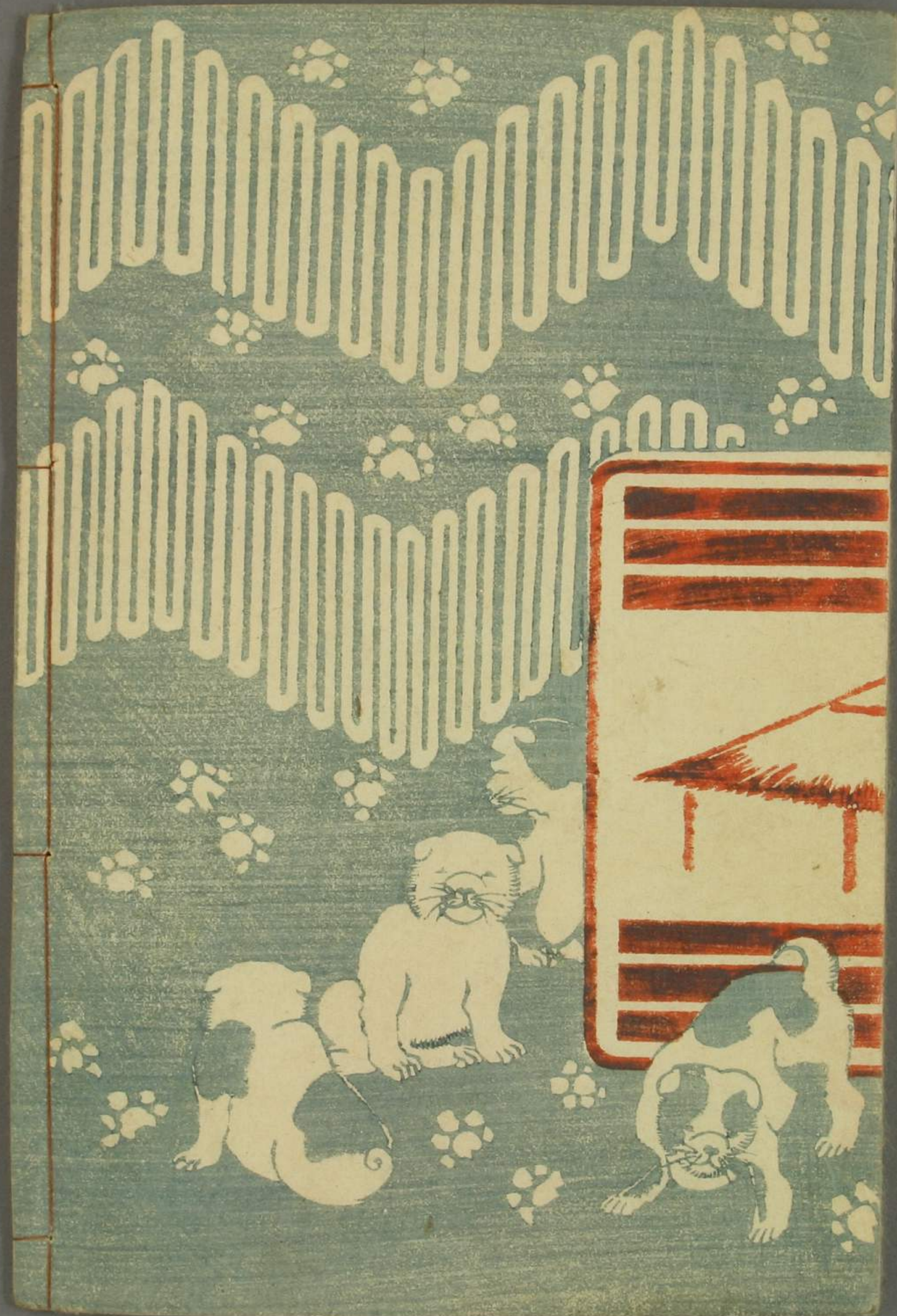
再出
尺八郎が妻
単節

再出
カニ郎
渾家曳手



再出道松の母
音音







特別

~13

4271

22





大傳上編

十七



大傳上編





まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ

まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ

まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ



まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ

まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ

まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ
 まはるはけのゑいね平のあゆみくえあつ



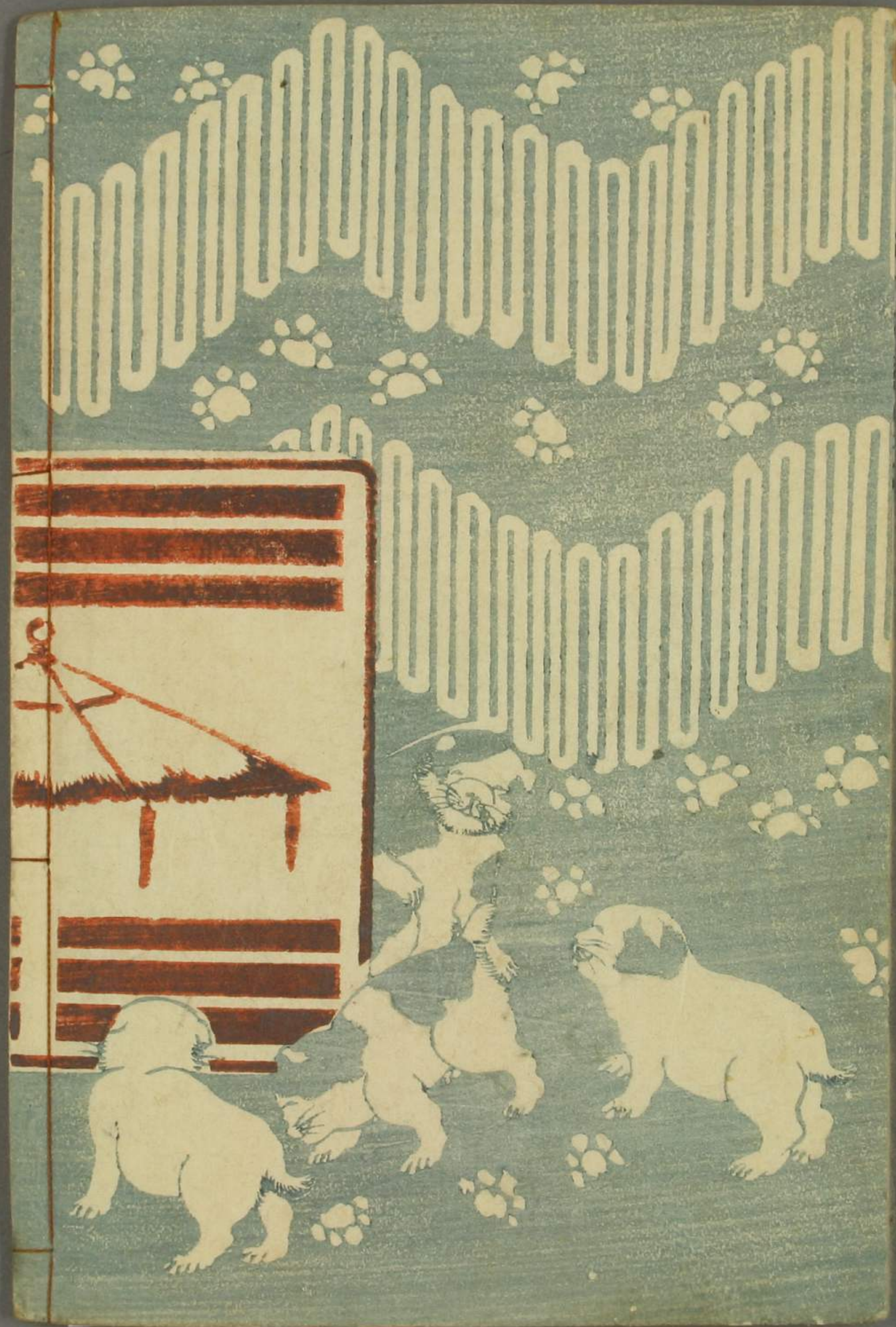
世田代山田

111



世田代山田

112





あゝあゝ

國の

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

文溪

あゝあゝ

あゝあゝ